

みんなでつながり語りあった あかし対話と共創ウィーク

対話と共創のまちづくり 首長サミットinあかし

10/25

対話や共創によりまちづくりを進めている首長が明石に集まり、取り組みや市政運営の考え方についてパネルディスカッションを行い、共同メッセージを発表しました。

対話と共創の
まちづくり
首長サミット
共同メッセージ



明石市長 丸谷聡子

誰一人取り残さないまちとして、市民とともに「対話と共創」でまちづくりを進めたい。

掛川市長 久保田崇さん

「環境」と「人」の持続可能性がまちづくりには必要。誰もが挑戦できる社会にしたい。

生駒市長 小紫雅史さん

みんなの課題をみんなで解決すること、そしてその時にはワクワクすることを大切に考えている。

諏訪市長 金子ゆかりさん

市内で活動するグループのところへ伺い、直接意見交換をしている。

小布施町長 大宮透さん

全国から多様な人材を呼び込み対話することが、気づきの場や新たな取り組みにつながっている。



オンラインで



オンラインで

淡路市長 戸田敦大さん

人口が減少するのをそのまま受け入れるのではなく、より良くしていくために対話が必要。

対話と共創ウィークを振り返る動画でご覧いただけます



市長メッセージ

前編

後編

対話と共創のまちづくり全国の仕掛人大集合

10/24

市内や全国で対話と共創に取り組む市民や自治体職員8人が集まり、経験や知恵、思いを語っていただきました。

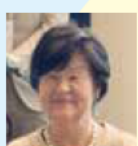
対話そのものが 防災になる



井上 真紀さん
(市コミセン職員)

地域の防災力を高めるには、普段からお互いの状況を知り、助け合える関係を築くことが大事。「輪」・「和」・「話」で地域のつながりをつくっていききたい。

自分たちで考え、 動いて地域を創る



大野 美代子さん
(明石市連合まちづくり協議会)

集う場所があり、さりげなく話す日常の中からまちづくりのヒントがたくさん出てきた。大切なのは「笑顔」で対話すること。

対話は具体的 行動の原動力に



村田 まみさん
(大刀洗町職員)

対話をする中で、参加者の「やってみよう」が可視化され、居場所と出番が生まれる。小さな実装→検証→改善の循環で、地域課題の解決と未来づくりを進めている。

次世代の担い手 づくりを重視



馬袋 真紀さん(朝来市職員)

若い世代が「自分の意見でまちが変わる」実感をえられるよう、対話の場と体験の場を設け、「居場所・出番」を増やしている。若年層の主体的参加をさらに広げたい。

SDGsを 「自分ごと化」する



高木 超さん
(北九州市立大学准教授)

対話と公民連携を進めるために、世界共通の目標であるSDGsを活用することができる。

地域・学校・家庭の 真ん中に子どもを



畑 智徳さん
(学校教育課)

地域・家庭・学校が対話を通して子どもを育てることが重要。

対話を重ね 動きながら形に



大野 成信さん
(市民とつながる課)

タウンミーティングやワークショップを通して、対話と共創のまちづくりの素地ができた。今後、共創プラットフォームを通して、より継続的に対話を重ね、課題を深掘りしていく。

“越境”で 役割固定から可変へ



後藤 好邦さん(山形市職員)

対話と共創を繰り返しながら、多様な主体が連携し、目指すべきまちの未来を具現化していく時代。だからこそ、“越境”し、多様な価値観を理解する必要がある。

さあここから始まる明石での共創！ To the future 大交流会

11/1

対話をするには、信頼関係をつくってから話し合うことが大切。先の見えない複雑な社会だからこそ、立場を超えてつながることが大切。



前日に行われた共創プラットフォーム設立イベント



共創トーク

嘉村貴州さん 三田愛さん

ゲストスピーカー、九州大学大学院客員教授の加留部貴行さん(下写真)が対話の必要性について講演。後半は、7つのテーマに分かれて参加者全員で対話交流をしました。

「対話＝聴く × 話す」。対話は、じっくりと話し合い意味付けを確認するプロセス。その中から多様な主体による「納得解」を創り上げることが大切。これからは、対話で関係を構築し、お互いを理解しながら共創する地域にしていこう。



加留部貴行さん

7つのテーマで対話交流 /

- 多世代交流
- インクルーシブフェスタ
- 小さな困りごとを解決したい
- 明石の歴史再発見
- 多文化共創
- ヒエラルキーのない社会
- パパの子育て



「あかし本のまちビジョン」 トークイベント

10/25

あかし本のまち大使の上田岳弘さん、ブックスポットオーナーの譜久山剛さん、親子紙芝居で活躍する益山おかりさんをゲストに迎え、本と地域の関わりについてお話いただきました。



本のまちづくり推進アドバイザー 吉成信夫さん(左)が進行役に



拡大版こども・若者会議

10/26

未来の明石のまちづくりにつながる「こども・若者計画」の策定に向け、これまでの会議を振り返り、アイデアをより具体的に、多角的に深めていきました。



今回は、会議のメンバー以外の新しい参加者も交えてワークショップをしました

中島さち子さんと一緒に
どんなアイデアを
出していくよ



手話でハイ、ポーズ



関連イベント

環境フェア2025秋



絵本の読み聞かせ&塗り絵で考える 「ありのままがあたりまえのまち」



ビーチクリーン



人権セミナー



SDGs 脱炭素 セミナー



小・中学生と教育長との対話



28日、市内の小・中児童生徒代表が13人集まり、夏の「明石こどもサミット」を振り返ったあと、あいさつ運動など各校の取り組みを紹介し、意見交換をしました。

参加者募集

第1回 共創ミーティング

ウィーク期間中に生まれたアイデアや気づきを振り返り、共創プラットフォームのこれからについて対話します。 12月4日(木) 締め切り

日時 12月14日(日) 午後2時～4時

場所 市役所南会議室棟2階(旧食堂)

対象 どなたでも

お問い合わせ/産官学共創課
(TEL)918-5335 (FAX)918-5101



申し込みはこちらから

ウィークではさまざまな対話の中から、つながりや共創のアイデアが生まれました。これからも“もっと”やさしいまち明石をみんなで創っていくため、共創ミーティングにぜひご参加ください。

